

意見交換のための論点整理

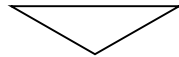
◎地域協議会連絡会議の議論

出雲は、一定の役割を終えたとの意見、平田、佐田、湖陵地域は、見直しが必要との意見、多伎、大社、斐川は、現行制度を存続すべきとの意見であったが、課題の指摘もあった。

◎今後の論点

(1) 市民の意見をどのように市政に反映させるか

市民や各種団体の意見・要望を市政に反映させるため様々な手法により市民意見の反映に努めているが、より効果的な方法を探りたい。



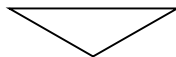
論点：地域協議会と自治協会等、コミセンとの役割の明確化

地域協議会と自治協会、コミセンとの役割が重複している、不明確であるとの意見が多く、各組織の役割が、今後のあり方を検討するうえでの最大の論点となっている。また、住民からも自治協会との違いがよくわからない、各種団体との連携がとれないなどの声があり、住民の認知度の低さは大きな課題となっている。

今後、それぞれの組織の役割を明確化し、住民意見をより効果的に市政運営に反映させる方策を検討してはどうか。

(2) まちづくりをどのように進めるか

地域まちづくり計画は今後も検証すべきとの意見がある一方で、具体的な活動目標が見出せず実践活動実績がない、単発事業にとどまっているなどの状況がある。また、実践活動を行っている地域も実践は各種団体等が担っている状況にあり、制度と実態が乖離している。見直しに当たっては地域協議会に対する期待度や活動内容が地域によって大きく異なる点も考慮しなければならない。



論点：地域のまちづくり組織、地域まちづくり計画、活動費をどう取り扱うか

それぞれの地域特性や人口規模の大小があるなかで、各地域協議会が統一的な制度のもと継続するのは難しい状況である。今後は、各地域の判断で、地域まちづくり組織や地域まちづくり計画の取扱を決定すべきであり、その状況により、支所の関わりや活動費の取扱を検討してはどうか。

『斐川地域については、検討結果を踏まえ、暫定措置を検討する』